

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0472400266
法人名	社会福祉法人 紀心会
事業所名	メサイア
所在地 (電話番号)	〒989-2201 宮城県亶理郡山元町山寺字堤山8-3 (電話) 0223-33-8898
評価機関名	特定非営利活動法人介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4丁目2番8号 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成19年8月22日

【情報提供票より】(年 月 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 9 月 19 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 12 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	7.68

(2) 建物概要

建物形態	○併設/単独	○新築/改築
建物構造	造り	
	1階建て	1階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(0 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(0 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	7 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.3 歳	最低	77 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	平田外科医院・宮城病院・藤田歯科医院・松本歯科医院・マコト歯科医院
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>小高い山に囲まれた広大な敷地には明るい色彩の西欧風の建物、そこには介護老人保健施設とケアハウスが隣り合わせていた。開所して5年、入居者が落ち着いて過ごせるようになった。当時は、認知症の受け入れに戸惑いがあり、重度の認知症高齢者を迎え、実践の中でケアを学びいまに至っている。常に入居者の目線でその思いを受け止め、急がずゆっくりと安心して自分らしく生活できるよう管理者、職員一丸となり支援している。地域からの問い合わせ、入居者も増えているとの事で行政との関係強化を図り地域に密着したより良いサービスを目指していただきた。</p>

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>① 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題①マニュアルを業務ごとに作成した。②薬本を購入し備えた。③カレンダーの位置は入居者の目線に改善されていた。④体重、水分他必要に応じたチェック票を作成し実践している。</p>
	<p>② 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>各ユニットのリーダーが中心となって取り組み、管理者が指導にあたった。日頃のサービスの振り返りをする良い機会となり、サービス向上を目指す姿勢がうかがえた。</p>
重点項目	<p>② 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>地域密着型サービス事業所として基準省令にあるように一日も早く運営推進会議を開催し、委員の協力によりサービスの質の向上につなげて頂きたい。</p>
重点項目	<p>③ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会時、家族面談時に現状の説明を行い意見を聞くなどしている。またグループホーム新聞を作成し近況を報告している。相談、苦情の窓口の説明をし、外部の相談窓口のポスターは掲示されている。これまでに寄せられた相談、苦情はないとの事であるが、気軽に相談していただけるよう働きかけを繰り返し行っていただきたい。</p>
重点項目	<p>④ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地元の商店を利用し、理解をいただいているようであるが、法人の夏祭りによる以外は町内会、老人会、ボランティア等との交流はない。防災訓練、グループホームの行事等に積極的に呼びかけをして交流される事を期待したい。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	明文化された法人理念が施設内に掲示され、それに向けた取り組みはされているが「地域密着型サービス」としての理念の見直しはなされていない。	○	これまでの理念を見直し、地域での日常生活の継続を目指したわかりやすい理念の検討を期待したい。そして地域との関係性を強化していくことが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を共有すべく会議等で話し合いを持ち、創意工夫されているが、具体的なケアにつながる取り組みが充分とはいえない。	○	丁寧に作成された理念を理解しやすくする為に簡潔な言葉で目標をたて管理者、職員間で取り組んでいただきたい。
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元のスーパー、理・美容院など馴染みの関係は出来ているが、法人による夏祭り以外に町内会や老人会など、地域との交流は行われていない。	○	今年の夏祭りで町長、区長さんの参加は得られたことで、これを機に少しずつホームの理解のためにも声をかけていきたいとのことであるので、地域との交流が深まっていく事を期待したい。
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の指摘箇所の改善が見られた。また今回の作業も職員が作成し管理者の指導を受け、日頃のサービス提供を振り返ることができたが、設問の意味の捉え方の難しさを話していた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実施していない。	○	行政に積極的に働きかけて体制を整え、運営推進会議を実施するよう努めていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域ケア会議に参加したり、地域包括支援センターの協力でリハビリの指導を受けてはいるものの、行政の担当者との働きかけに消極的である。	○	地域の利用者も増えていることもあり、行政側からも運営推進会議、地域密着型サービスの指定機関としての助言、指導を行うなどの働きかけを望みたい。よきパートナーとしてサービスの質向上に取り組んでいただきたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	機関紙発行、請求書、個人の買い物の領収書などこまめに送付している。また、状態の変化はその都度電話にて連絡。面会者も多く家族と話す機会も多い。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に相談・苦情の窓口の説明はなされているが、これまで苦情が寄せられたことはなかった。国保連、第三者委員の相談窓口もポスターを掲示するだけでなく重要事項説明書に明記していただきたい。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の異動はないが一部非常勤職員の勤務が両方のシフトに入っている。また、離職の際は馴染みの入居者には早めに知らせ、家族へは機関紙、面接時に話をしている。日常は「おはよう」の挨拶はあるが、職員退室時「さようなら」の挨拶は入居者の帰宅願望に配慮し行わないとの事である。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルに合わせた外部研修、法人内での全体研修、協力関係にある医院の開催する講習会など積極的に参加を促し、会議の中で報告し共有している。また資格取得も全面的に応援している。又日々のケアの中でも管理者が気づきの部分を伝え、指導をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年3～4回実施されているグループホーム連絡協議会南ブロックの研修会に参加し事例検討会をしている。また、6～12月にお互いのGH見学会を予定している具体的な計画はないが、いつでも出来る状態にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者の多くは家族が希望し、本人が納得しての入居は極めて少ない。入居してからホームに馴染むまで時間を要する方もいるので時間的な配分で入居者の行動を把握し、家族からの情報を加え計画を立て、ケアにあたっている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	配膳時の器の位置、料理のコツ、掃除の仕方などを具体的に教えていただき入居者の意欲を引き出し職員と共に過ごしていることがうかがえた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	身体機能の低下されている方も多く、訴えも少なくなっている。そこでこまめに声がけをし、排泄サインを見逃さず対応したり、夕方に希望者をドライブに誘うなど工夫をしている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	帰宅願望の強い方、身体機能の低下の方等それぞれの入居者の状態に合わせた日頃のケアの取り組みを計画に反映させ、作成している。そのコピーは家族に渡している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化に応じ見直しをし、担当職員が作成にあたり医師、理事長、家族、管理者から意見を戴き計画書を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	理事長が医師であり、定期受診は、平田外科医院であることや緊急時には同施設内にある老人保健施設の看護師の協力が得られている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期検診、受診は施設の母体である平田外科医院を利用し、心療内科など専門医に関してはそれぞれのかかりつけ医を利用し、通院時は家族もしくは業務に入っていない管理者が主に携わっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に終末ケアに関して実施しない事を伝えているが、入居中に状態低下が見られた時は早めに家族、医師に相談をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声がけは耳元でゆっくり話す、トイレ誘導時の配慮、個々の状態に合わせた表札の工夫、記録のとり方など配慮されていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状態のレベル低下がみられ、個々の希望はなくなっていることから一人ひとりの生活のペースを考慮し、これまでの生活を参考にそれぞれにあった過ごし方を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は職員により2日毎に作成、地元の新鮮な食材を使い、入居者に手伝っていただき作っている。毎月、行事があり、行事食をメニューに入れたり、個々にあった食事の提供をしている。また、介助テーブル、エプロンをせず食べこぼしをしても目立たないようさりげない工夫に温かさを感じた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に午後の入浴になっており、自由な時間に入浴が出来る。特に拒否のある入居者は限られた職員が対応しているが交代時は連携をとり誘導し入浴が楽しめるようになっていた。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	行事の際のプログラムを書く人、リビングに季節の花材を近くの山からとってきて生ける人、おしゃれな暖簾を作り食堂のカウンターにかけるなど職員がそれぞれの能力を引き出し支援されていた。しかし機能低下により洗濯物の片付けが困難になっている方も少なくない。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	戸外に自由に出入りできるようになっているが室内で過ごされる方が多い。外出をしたがらない入居者を誘い夕方ドライブに誘うが同じメンバーになってしまう。今後日中の外出を増やすよう考えている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は施錠しているが、日中は見守りなどをしながら玄関に鍵をかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回「紀心会」主催で夜間帯1回、昼間1回と消防署立会いのもと実施している。また災害対策委員会を設置し、非常時に備えた会議を月2回実施し、食品備蓄の確認等をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	給食委員会で話し合うも栄養の偏りや献立のマンネリがみられる。	○	疾患により食事、水分制限されている入居者も少なくないと思われるので定期的に管理栄養士の指導、助言をいただきバリエーションのある献立を作成し、個々の状態にあわせた食事の形態を試みて取り組んでほしい。
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	静かな環境にあり、せみ、小鳥のさえずりが聞こえても和む。ワンフロアの食堂と居間がテーブル、ソファで区切られ目が行き届きやすくゆったりしていた。また居間から続いた長い栈橋で敷き詰められたベランダには洗濯物干し場や入居者が自由に出入り出来るよう椅子がおかれ安心して戸外の空気に触れられるようになっていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にベッドとチェストはすでに準備されているが、夜具や馴染みの家具を持ち込んだり、これまでの作品を飾ったりと思いつきの部屋作りをして過ごされている。		